

船井奨学金報告書

磯村真由子

ETH に留学しております磯村真由子と申します。

今回はスイスのアクティビティについて主に書こうと思います。

1. Group Tripーグラウビュンデン州ー

私の研究室ではよくグループ旅行に行きます。研究発表などは全くなく、完全にバケーションを楽しむ目的の旅行です。去年までは国外に年に一回だったのですが、今年から年2,3回にして、スイスの小旅行をしようということになりました。この旅行の幹事は、学生が最低1回行うことになっており、今回は自分が幹事の番でした。せっかくスイスの冬旅行なので、スキー旅行をすることにしました。行き先は Scuol(シュクオール)という小さなスキーリゾート地です。スイスは4つの公用語が存在する国で、ドイツ語(チューリヒなど主に北側)、フランス語(ローザンヌなど主に西側)、イタリア語(ルガーノなど主に南側)、そして今回の目的地シュクオールなど東側に位置する場所で使用されているロマンシュ語です。日本人にとってスイス旅行というと、チューリヒもしくはローザンヌからスイスに入って、ベルンなどの町を楽しみ、山や自然を楽しみにユングフラウ、アイガーなどからツェルマットを訪れるといった中央～南側ルートに行くのが一般的だと思います。しかし、このロマンシュ語がよく話されているグラウビュンデン州は隠れた名所です。チューリヒから電車で2時間半ほどで、いわゆる“アルプスの少女ハイジ”の世界に行くことができます。夏は登山、冬にはスキーが盛んに行われており、日本人には非常に魅力的な温泉施設も充実しています。上に挙げたスイスの THE・観光地よりもずっと人が少なくのびのびと過ごせるのもよい点だと思います。もし、スイスにお立ち寄りの際は、是非このグラウビュンデン州も訪れてみるとよいと思います。



<https://ameblo.jp/phantasya/entry-11530448421.html> より引用

2. 研究について

もちろん、研究も引き続き頑張っております。自分ももうすぐこちらにきて2年になるということで、周りを引っ張っていく上級生となっていくことが要求されてきています。Group Meetingでは毎回黒板の前に立たされて、あるランダムなトピックについて説明するという5 min Lectureなるものをやらなくてはならず、これがとても大変です。どんな内容が当たるかわからないので、有機化学の教科書を引っ張り出して実験の合間に勉強という毎日です。次のセメスターには再びTAになることが決まり、今度は実験演習ではなく授業を持つことになりました。すでにTAミーティングが開かれてテスト問題やエクササイズ問題の話し合いがなされています。このようにやるのが山のように毎日ヘトヘトですが、これによってタイムマネジメントの能力も鍛えられると思い、Ph.D.になるには本当に様々な能力が要求されるのだなと改めて感じています。

そしてこのように大変な中でありがたく思っているのが同僚の存在です。みんなも同じくらい忙しいはずなのですが、辛いときは話を聞いてくれたり、さまざまなお楽しみ企画(今の時期ですと、W杯賭けゲームが熱いです)をしてくれたりと、真面目な中にもシリアスになりすぎない姿勢には学ぶことがたくさんあります。これもまた長いPh.D.生活を生き抜く大事な要素であり、自分も辛い顔ばかりせず、積極的に楽しさを見つけていけたらいいなと思います。